



市長から

新型コロナウイルス感染症については、今年に入り全国でオミクロン株による感染が急速に拡大し、岡山県全域に「まん延防止等重点措置」が3月6日まで適用されました。瀬戸内市においても日々多数の感染者が発生し、1月からの感染者は2月18日現在で556人となっております。収束の見通しは立っていません。

こうした中、市役所本庁舎2階においては複数の職員が感染し、クラスターに認定され、1月31日から一部事務を縮小するなど、市民の皆さんには大変なご心配とご迷惑をおかけすることとなり、お詫びを申し上げます。職員においては、日ごろから不織布マスクの着用、1日2回の消毒



新型コロナワクチン接種会場の様子

作業などを実施していましたが、感染が拡大することとなり、改めてオミクロン株の感染力の強さを身をもって感じました。今後も感染拡大防止に向け、改めて共用部分の消毒や黙食、換気の徹底など予防対策を強化していきます。

また、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（3回目）は、医療従事者や消防署職員に続き、2月1日から高齢者への接種を市内医療機関とゆめトピア長船で始めました。今後

は、高齢者以外の人の接種を実施するとともに、5歳から11歳までの小児用ワクチンの初回接種も開始する予定とされています。できるだけ多くの人が接種できるよう、ホームページや広報紙などにより周知を図ってまいります。

瀬戸内市防災アプリ

防災情報伝達システムの整備については、4月からの運用に向けて最終段階の調整を進めており、2月からは防災アプリの試験運用を開始しています。防災アプリを個人所有のスマートフォンにインストールすることで、緊急情報や市からのお知らせを文字と音声で確認することができます。ようになります。

市広報紙やホームページをはじめ、出前講座や高齢者のための指導を行っていくこととしてまいります。

また、昨年9月からICT支援員を配置し、ICT機器を活用した授業の支援や教職員向けの研修などを行っており、GIGAスクール構想の達成に向けた体制を構築しています。

自立支援室の開設

長期欠席や不登校の生徒が安心して過ごせる居場所として、邑久小学校と邑久中学校に自立支援室を設置していますが、新たに牛窓中学校と長船中学校にも設置します。

これにより、相談員、支援員が見守る中、生徒が自らの可能性やそれを実現する方法を見つけ、卒業後の自立を支える力を育てたいと考えています。

入路および火葬場敷地造成に係る土木工事は、第1期工事の進捗率が令和4年1月末現在で82・5%となっております。現在調整池などの工事を進めるとともに、第2期工事の準備にも着手しています。

また、建築工事は、設計施工一括発注方式（デザインビルド方式）を採用することとし、公募型プロポーザルにより事業者を選定します。今後は、令和4年4月に最優秀提案を選定し、5月に仮契約、6月に本契約を締結する予定としてまいります。

公立保育園・こども園の保育システムの導入

働き方の変化により、保育需要が増加するとともに、求められる保育の質も高まってきています。

保育士の多岐にわたる業務を軽減し、子どもの保育に集中できる環境を整えることを目的に、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などを活用して、ICT技

教育長から

新型コロナウイルス感染症は、幼稚園、小・中学校でも発生していますが、感染防止対策を十分に行った上で教育活動を実施しています。

また、何度もやってくる感染拡大の波によって、子どもたちは不安やストレスを抱えるなど、精神面に強い影響を受けており、感染防止対策とともに心のケアが大きな課題となっております。

学校ICT環境

小・中学校では、児童生徒に配付した1人1台の端末を活用して、発達段階に応じた資質・能力を身に付けるための授業を進めています。今後は、情報活用能力の育成に加え、情報モラルを身に付ける

皆さんなどが集まる機会を捉え、有効性を積極的にPRするとともに、瀬戸内市社会福祉協議会や瀬戸内警察署、協定を締結している市内企業などと連携し、幅広い年齢層の人に防災アプリの普及についてお願いしたいと考えています。

市内公共交通の現状と今後

長引くコロナウイルス感染症の影響により外出を控える人が増える中、公共交通利用者が減少し、各事業者は大き

な打撃を受けています。

JR西日本岡山支社では、経営環境の悪化を背景に、3月から赤穂線の夜間時間帯の減便と最終列車の繰上げに加え、長船、邑久両駅の無人化を予定しており、昨年3月の改正による昼間時間帯での減便と併せて、市民への影響が更に懸念される状況となっております。

路線バスでは、両備バスの路線廃止に伴う4月1日から由明・長島愛生園線の市営バス化に向けた準備を進めています。また、今年秋頃とされている「牛窓北回り線」廃止への対応についても、同路線を市営バス化して維持し、市内周辺部に住む市民の移動手段を支えていきます。

新火葬場整備

岡山ブルーラインからの進



市営バス

